

政策別評価

政策1 人権教育

第1項 人権の尊重と権利の擁護

◇施策(1) 人権施策の推進

目 標	<p>基本的人権の尊重という普遍的な視点から、総合的・体系的な教育活動の推進、人権教育に係る学習機会の充実などに取り組み、社会的身分・門地(家柄)・人種・信条・性別・年齢・障害の有無等による差別のない、市民一人ひとりがお互いの人権を尊重する社会を目指します。</p>
担 当	<p>学校教育課</p>
取組状況	<p>入間市人権教育推進委員会主催の授業研究会を年2回(小中学校で各1回)実施、活用事例を『入間市の学校教育』に掲載し、市内各校への周知を図っている。授業研究会においては、「相手に寄り添う気持ち」や「自分の心と相手の心を大切に作るバランスを追求していくこと」を目指した児童生徒の主体的な学習活動が展開された。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr/> <p>授業研究会を年2回実施し、『人権感覚育成プログラム』の普及・啓発を推進することができた。その結果、学級経営が充実し、児童生徒の人権感覚をさらに豊かにすることができた。</p>
今後の方向性	<p>引き続き、年に2回の授業研究会を実施し、『人権感覚育成プログラム』の更なる普及を目指す。また、「人権感覚育成プログラム」の指導とともに、部落差別解消推進法の趣旨をふまえ、人権教育の指導の工夫・改善を図るための研修及び授業実践を実施していく。</p>
担 当	<p>社会教育課</p>
取組状況	<p>人権問題に関する講演会や講座を通して、広く市民に人権感覚を養い、問題解決のための学習の機会を提供している。</p> <p>人権教育推進事業として、小中学校PTAが実施している家庭教育学級のテーマに、人権問題を取り上げた。また、人権教育実践報告会用に、学校・PTA・公民館が今年度の人権教育の取り組み事例報告書を作成した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <hr/> <p>コロナ禍で、人権啓発講座はオンライン参加に対応して開催し、人権問題講演会はオンライン限定配信にて開催した。その結果、会場での参加ができない人も参加することができ、より多くの市民の人権感覚を養うことができた。</p>
今後の方向性	<p>市民の身近な人権課題の解決に向けて、事業を実施していく。コロナ禍の実施に当たっては、オンライン開催の検討など、より市民が参加しやすい開催形態となるよう工夫していく。</p>

担 当	公 民 館
取組状況	広く地域住民に、人権への意識を高める学習の機会を提供している。9地区のうち3地区については、社会教育課との共催による人権教育推進事業として、3つの講座を実施した。
自己評価	B 人権教育推進事業について、「同和問題」、「性的少数者の人権」、「高齢者の人権」の3つのテーマを取り上げ、講座を実施した。社会教育課と連携を深めることで、より質の高い講座を提供することができた。
今後の方向性	現実施体制を継続し、人権教育に関する様々なテーマを取り上げ、全地区の公民館で人権意識の高揚、啓発に関する事業を実施していく。

◇施策(2) 平和施策の推進

目 標	「人間市平和都市宣言」の趣旨に基づき、基本的人権の尊重という普遍的な視点から、平和の尊さについての啓発活動を推進し、平和意識の高揚を図ります。
担 当	学校教育課
取組状況	平和を願う講演会を実施し、平和ポスターコンクールへの積極的な取組を依頼した。
自己評価	A 「平和を願う講演会」については、中学校11校中2校が新型コロナウイルス拡大の状況により、実施することができなかつたため、9校の実施となった。平和ポスターの取組については、各小中学校より83点の応募があった。
今後の方向性	新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、全中学校11校での「平和を願う講演会」の実施を目指す。実施にあたっては、各校における事前指導の在り方(社会科による事前指導等)の工夫を促していく。平和ポスターの取組について、積極的に依頼をしていく。

◆外部評価

公教育の一番の土台となる施策・事業であり、丁寧に続けていくことが大事な仕事です。昨年度はコロナ禍の厳しい状況の中で、前年度の経験を活かし、オンライン開催など様々な工夫をしながら実施したことが伺えました。施策実現のために尽力した関係各所の皆様には頭が下がる思いです。

また「性的少数者の人権」など、現代的な課題にも取り組んでいることが伺えました。今後は、「全体を通じた評価」でも触れましたが、「子どもの権利条約」理念の実現が全国的なテーマになってくることが考えられます。また「平和施策の推進」に関わって想起されるのは、今年はロシアによるウクライナ侵攻という衝撃的な出来事が起こってしまったことです。子どもたちも大きなショックを受けています。教育活動を通じて、子どもたちに平和の尊さを具体的に伝えて心をケアしていくことが極めて大事な局面に、残念ながら立ち会っている真っ最中です。現代的な課題に応えながら、丁寧に事業の継続をするよう、お願いいたします。

政策2 生涯学習

第1項 生涯学習の推進

◇施策(1) 学習環境の充実

目 標	市民のだれもが、いつでも、どこでも主体的に学習に取り組むことができ、だれもが気軽に参加できる学習機会の提供などを市民との協働により進めることで、学習環境の充実を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	「生涯学習ガイドブック」は、例年通り年2回の発行ができた。「茶の都出前講座」の実施回数は、目標値の半分に満たなかったが、23件の申し込みの内、18件(参加人数延べ264人)を実施した。市民との協働により、多方面でオンラインの活用が進み、生涯学習情報紙「かがやく」や「いるまなびとサイト」で、市民の学習活動を支援した。
自己評価	A 昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、今年度は、コロナ禍であっても実施することができる事業を検討し、実施した。情報紙「生涯学習ガイドブック」等については、予定通り発行することができた。生涯学習「茶の都出前講座」については、中止となった講座もあったが、感染防止対策を行った上で、可能な限り実施した。市民との協働により、オンラインの活用が進み、新たな手法の試みが実践できた。
今後の方向性	WEBを活用した情報発信が進展したが、情報機器を使用しない方等、多様な市民のニーズに応えられるよう、様々な媒体を通しての情報発信を行っていく。

◇施策(2) 学習活動の充実

目 標	多様化するライフスタイルに応じた現代的・社会的課題や目標を、市民や市民活動団体が共有し、学び合い、支え合い、高め合えるような学習活動の充実を目指します。
担 当	社会教育課
取組状況	市民がともに学び合うための環境整備に取り組むために、生涯学習をすすめる市民の会と協働して事業を行った。
自己評価	A 「まちの先生講座」や「生涯学習けいじばん」など、生涯学習をすすめる市民の会と密に連携して実施することができた。大学等との連携事業は、早くから協議や準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止や規模縮小を余儀なくされた。
今後の方向性	生涯学習をすすめる市民の会については、幅広い年齢層の会員拡充など、会員数の維持確保が課題である。大学等との連携事業においては、協議や準備に時間を要することから、コロナ禍での見通しが立てにくい。開催方法の検討が必須である。
担 当	公 民 館
取組状況	地域住民が自ら企画運営する事業を支援した。世代間交流事業、地域交流事業、地域の伝統文化を守り育む事業を実施した。
自己評価	B 地域住民が企画する事業を支援した。様々な交流事業、伝統文化を守り育む事業については、感染症拡大防止のため中止になったものもあった。しかし、感染症対策の徹底を図り、開催方法等を見直すことで、昨年度と比較して、多くの事業を実施することができた。
今後の方向性	地域課題の解決に向けて、課題を的確に把握し、地域の人材発掘・活用を進める。様々な交流事業については、今後も継続し、地域コミュニティの充実に努めていくとともに、地域の伝統文化を守っていくため、団体の活動を支援していく。また、コロナ禍における新たな事業展開を検討する必要がある。

◇施策(3) 学習成果の活用

目 標	学習を通じて地域課題の共通理解を進め、市民のまちづくり活動への参加を促進するなど、学習成果の地域への還元を促進するための仕組みや環境を整備します。
担 当	社会教育課
取組状況	生涯学習の成果を発表する機会を提供する目的で、「文芸入間」の発行及び「生涯学習フェスティバル」の開催を市民との協働で実施した。文芸入間は、特集やデザインなどの誌面構成を一新した。生涯学習フェスティバルは、オンライン開催とし、37団体が成果発表や活動紹介の動画を制作し、インターネットメディアで配信した。2週間の配信期間中に、2,631回の閲覧回数があった。 市民を講師とした「まちの先生講座」は、昨年度の2倍以上の延べ493人が受講し、参加者の約95%が「満足」というアンケート結果になった。
自己評価	A コロナ禍であっても学びを止めない、という姿勢で取り組めた。「文芸入間」は、編集委員との連絡調整を密にして、発行することができた。「生涯学習フェスティバル」は、展示会・文化祭等が多く中止されるなか、インターネットメディアで学習成果発表の場を提供するという方法が市民ニーズを捉え、多くの参加者があった。また、動画の制作配信を通じて、主催者側・参加者側ともに新たな学びがあり、新規参加者も増えた。10年目となった「まちの先生講座」は、個々の満足度は高いが、受講生同士や講師間の繋がりを構築することができない課題が見えた。
今後の方向性	「文芸入間」については、編集委員・投稿者ともに高齢化及び減少がみられるので、新たな人材の拡充が必要である。「生涯学習フェスティバル」については、コロナの推移を見極めているうちに初動が遅れ、準備期間が足りなかった反省から、コロナ禍における早目の企画立案が必要である。「まちの先生講座」については、受講生間・講師間の繋がりを構築し、一過性ではなく、循環型の事業に発展させていくことが課題である。
担 当	公 民 館
取組状況	地区文化祭や各種芸術の発表会等については、地区文化協会や各種団体との共催により、開催した。
自己評価	B コロナ禍ではあったが、地区文化協会や関係団体の協力により、日頃の学習成果の発表の場として、開催することができた。今後も地域との協力体制を継続し、実施していく。
今後の方向性	今後も地区文化協会や各種団体との協力体制を維持・継続し、地域で活動する団体が学んだことを、地域に還元できるような事業の実施に努めていく。また、コロナ禍における事業の実施方法、実施内容等を検討する必要がある。

◆外部評価

まずは生涯学習情報紙「かがやく」の発行について、ボランティア編集委員の応募がないという、来年度に向けた課題に記述されたところに注目させていただきます。この課題は、コロナ感染状況が原因か、それとも継続的な課題かが明らかではない中、生涯学習という市民が自分達の人生を豊かに過ごすために必要な取り組みの意義を、どのように発信するかにかかっており、その重責を担う情報紙の活動で、かような事態になっていることの根本的な原因を探る必要を感じました。ただ、評価4は妥当であり、それは、編集員不在の中で発行形態の変更や、WEB限定版としての発信につながったからでもあります。この課題にあわられる、市民のニーズと情報の発信を継続的に検討する必要も併せて指摘しておきます。

「生涯学習茶の都出前講座」については、コロナ禍での活動の制限を鑑み、中止もやむなしの判断は適切だと考えています。またその中での評価を、申込数を加味することで、事業本体の必要性の担保となり、妥当な評価であると考えます。インターネットを活用した学習情報の提供や、「いるま学びの場」の発行など、当初の計画通りに進めたことも評価に値します。

生涯学習フェスティバルの実施についての評価は、オンラインによる取り組みが、それもこの状況下で、一歩先ゆく取り組みとして自らも高評価を与えていたことがよかったです。特に今回「オンラインdeいるまなびと」は動画投稿サイトの利用など、若者に寄り添う企画であったと推察され、動画閲覧回数を評価の基準として触れられているところが、これからの新しい評価の基準になる前向きな評価です。公民館主催のその他行事についても、多くが昨年に引き続き、コロナ禍で縮小、中止に追い込まれてしまいましたが、その中でも開催できた「地域住民が自ら企画運営する事業」や「世代交流事業・地域交流事業」「地域の伝統文化を守り育む事業」が、開催回数だけではなく、参加者の満足度から評価をしている点は、とりわけ困難な中での事業を正確に評価する上で、大切な指標であったと考えます。ただ、参加者の満足度という尺度がどのような基準であったのか、ある程度の尺度を示すことも求められることを付け加えておきます。「まちの先生講座」は10年間という継続の年数に加え、参加者の95%が「満足」ということが、特筆されることです。ただ、最初に触れた「かがやく」と同様に、「ボランティア養成事業」の評価が3であることから推察できるように、市民の参画をどのように構築していくかが、今後の大きな課題だとも考えます。

政策3 幼児・学校教育

第1項 学校教育の充実

◇施策(1) 学校教育体制及び学習環境の充実

目 標	児童生徒に対する教育的支援の充実を図り、子どもたちの「生きる力」を育みます。
担 当	教育総務課
取組状況	良好な教育環境を確保するために、教育教材、管理備品、図書等の整備・充実を図る。
自己評価	A 小中学校で使用する教育教材、管理備品を計画的に購入することにより、学習効果が高まった。 図書の整備については、各学校の学校図書館図書標準の達成(充足率100%)を目指した結果、令和4年3月末の充足率の平均は小学校で90.09%、中学校では82.47%であった。
今後の方向性	財政状況は厳しいものの、教育活動に支障をきたすことがないよう、教育教材、管理備品、図書等の更新に努める。また、図書の整備については、学校図書館図書標準の達成(充足率100%)を目指す。
担 当	学校教育課
取組状況	コロナ禍における教職員の負担軽減を図るため、各学校にスクールサポートスタッフを配置した。また、小中一貫サポーターを全小学校に配置し、各中学校区の特徴を生かした「小中一貫教育」の充実を図った。 生徒指導訪問により、学校の生徒指導、教育相談上の課題をきめ細かく把握することで、市役所、警察等の関係部署とのスムーズな連携につながっている。 幼稚園、保育所(園)、こども園、小中学校への巡回支援を行い、発達に特性がある子どもへの早期支援、関わり方に対する助言を行った。さらに、特別支援学校からコーディネータを派遣していただき、各施設における指導方法について指導いただいた。 新入学児童生徒に対し、学用品費の入学前支給を継続実施することで、経済的な支援が必要な家庭を確実に支援し、児童生徒が安心して学校に通える環境づくりを進めた。
自己評価	B コロナ禍ではあったが、各中学校区の教育方針に基づき、乗り入れ授業や異校種間による合同研修会等を実施し、特色ある教育活動を実施できた。 学校は学びを止めない工夫をしながら学校運営を続け、運動会、体育祭、修学旅行などの学校行事も実施することができた。児童生徒は全体的に落ち着きのある学校生活を送ることができている。一方、不登校児童生徒数は増加傾向にある。学校だけでなく、関係各課や様々な機関などとの連携を行い、適切な対応を行えるよう、施策の充実を図る必要がある。
今後の方向性	学校と市教委、関係諸機関が情報を共有し、「誰一人取り残さない教育」が行えるよう、これまでの施策をさらに充実・発展させていく。新学習指導要領完全実施に伴い、子どもたちに「生きる力」を育む教育を充実させていく。

◇施策(2) 学校教育内容の充実

目 標	子どもたち一人ひとりについて、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を目指します。
担 当	学校教育課
取組状況	<p>学校指導訪問は、西部教育事務所や市内管理職と連携し、指導者がリーフレット等を活用し、マンツーマン等で授業者を指導することができた。</p> <p>ふるさと入間を愛する心の育成を目的とした「狭山茶とふれあう教育」については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度については事業の内容の見直しや規模を縮小することで実施し、中学校の盆点前体験は中止とした。</p> <p>体力向上については、体力向上推進委員会にて新体力テスト結果の分析、また、コロナ禍での体力向上策を検討し、各小中学校へ周知を図った。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成に向けた教職員の資質向上を目的とした研修については、コロナ禍により様々な活動が制限される中、工夫して実施した。研修の成果が各種の学力調査の結果等に反映されているとまでは言えない現状であるが、タブレット端末の活用等ICT機器の授業活用に関しては、大幅に進展した。</p>
今後の方向性	計画されている施策・事業を確実に実施し、確かな学力の習得、豊かな心の醸成、健やかな体の育成を推進する。引き続きタブレット端末の活用について研修を進める。
担 当	学校給食課
取組状況	旬の食材や地場産(県内産・入間市産)の農作物を使用した給食、月1回の行事食の提供を行った。
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>国内産の食材を使用した季節感のある給食の提供ができた。また、残留農薬検査を実施した。調理員等の保菌検査や研修等を行い、安全衛生管理の向上に努めた。</p>
今後の方向性	旬の食材や地場産物(県内産・入間市産)の給食の提供や月1回の行事食を継続していく。 食品検査、残留検査等の衛生に関する検査についても継続していく。

◆外部評価

全体的に事業評価点数に「4」が多く、コロナ禍の中で規模を縮小するなど計画通りに実施できなかった施策を反省しているように拝見いたしました。オンライン開催など様々な工夫を凝らして実行したことが報告書の各所から伺えました。新型コロナウイルスが子どもたちの学力にどう影響したかの報告が全国から上がってきている最中ですが、学校教育関係者の皆様のご尽力により、今のところ心配されたほどの学力低下は見られないように思います。いま徐々に通常の活動に戻りつつあり、学校でも運動会や修学旅行など実施できる見込みですが、また今後どう展開するかは予想ができませんので、引き続き状況を見ながら臨機応変にご対応いただければと思います。

またプログラミング教育やタブレットの活用を含め、GIGAスクール構想や新学習指導要領への対応も丁寧に進めているように拝見いたしました。文科省は現在「令和の日本型学校教育」という理念を掲げ、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」というキーワードを軸に、今後の学習指導要領改訂を検討している最中です。授業内でのICT活用が当然の前提として話が進むことが想定されていますので、今後も引き続き丁寧に教員の資質・能力の向上を図っていただければと思います。

狭山茶を軸とした地域との関わりは入間市の大きな個性と特徴ですので、コロナ禍では様々な制約もあるだろうと推察いたしますが、引き続き進めていっていただきたいと思います。文科省の言う「探究型」の指導を実践する際も、この狭山茶の伝統があることは、極めて大きな強みになるだろうと思います。

働き方改革の推進については評価点数が「4」となりましたが、ICTを活用した校務合理化など、やれることはまだまだたくさんありそうに思いました。子どもたちも実は先生たちの働き方を日々しっかり見えています。教師が魅力的な仕事だと子どもたちに思ってもらえるよう、先生たちが最新のテクノロジーをスマートに使いこなして、明るく楽しく笑顔で働き続けられる環境を、教育委員会には整備していただきたいと思います。

政策3 幼児・学校教育

第2項 子ども・子育て支援の充実

◇施策(1) 幼児教育の環境整備

目 標	人間形成において、非常に重要な役割を持つ幼児期教育の充実を図ります。
担 当	学校教育課
取組状況	子ども未来室事業の取組として、「遊びと学びの手引き」や「育ちの記録シートおちゃめ」を活用している。「遊びと学びの手引き」では、幼児期・児童期の子どもの発達に即した活動例を提案することで、「育ちの記録シートおちゃめ」では、生まれた時から現在までの子どものことを記録することで、それぞれ、子どもの学びや育ちの連続性を図っている。また、保育士や幼稚園教諭の専門性を高めるため、臨床心理士や作業療法士による巡回支援や様々な研修会を行っている。これらの取組を通して、子どもの特性を理解した適切な支援が行われることを目指している。発達に課題のある子どもに対して幼児の通級指導教室「茶おちゃお」において、各施設と連携をしながら、子どもにあった支援を行うことで、小学校へのなめらかな接続が行われることを目指している。
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>幼児期の教育を支援することで、市内の小学1年生の多くが落ち着いた学校生活を送れている。「遊びと学びの手引き」がすべての施設で活用されており、保幼小が同じ支援を行う体制が整えられている。「茶おちゃお」においては発達に特性のある幼児への支援により、集団生活への適応等の効果が上がっている。また、研修・巡回支援等で、保育士や幼稚園教諭の専門性が高まり、指導力が向上している。研修については、コロナ禍においても、オンライン・オンデマンドで開始することで、参加の機会を充実させた。</p> <p>子ども未来室事業が保護者に理解される中、就学相談の件数も毎年増加しており、就学時に相談内容をふまえた対応ができることにより、小学校生活において、子どもにとってのよい学びの場が提供できている。</p>
今後の方向性	「児童発達支援センター」と連携を図り、子どもの特性に合った支援を充実させていく。また、研修の開催方法を工夫し、より専門性・指導力が高まる機会を増やしていく。

◆外部評価

事業評価点数に「5」が少なかったのはコロナ禍で苦労したことの反映かと推察しますが、ICTを活用するなど工夫して事業を実施している様子も伺えました。「全体を通した評価」でも触れましたが、仮にこども家庭庁ができた場合、市長部局との連携のさらなる強化など、今後この領域の事業に影響が出ることも考えられます。日本という国全体の将来に関わる大切な仕事の領域ですので、目的を見据えて、手段にとらわれず、丁寧に事業を推進していただきたいと思います。

政策3 幼児・学校教育

第3項 学校施設の整備

◇施策(1) 学校施設の充実・最適化

目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再配置に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進めます。
担 当	教育総務課
取組状況	統廃合の方針として、『入間市立小・中学校の規模及び配置の適正化に関する基本方針』に基づき、西武中学校及び野田中学校の統廃合に向けて学校等の協議を開始し、課題整理など検討してきた。また、学童保育室を校舎内に受入れる工事が開始されるため、担当課及び学校との協議、調整を図った。
自己評価	A 公共施設マネジメント事業計画が策定され、学童保育室に関する事業が計画どおりに達成できた。学校への影響が最小限となるよう、対象校の意見等を踏まえ担当課との協議を行った。
今後の方向性	令和3年度に引き続き、上記の基本方針及び公共施設マネジメント、学校施設個別施設計画を基に、施設の再配置やサービスの適正化など、公共施設全体の視点から学校施設の最適化を進める。

◇施策(2) 学校給食施設・設備の充実

目 標	学校給食にかかる施設や設備の改修、改善等を適切に行い、安全・安心でおいしい給食の安定的な提供を確保します。
担 当	学校給食課
取組状況	老朽化した調理機器の入れ替えを行い、効率的な施設の運営管理に努めた。自校給食施設にスチームコンベクションオープンまたは真空冷却機を3校に導入した。
自己評価	B 機器更新により給食調理作業の効率性が維持されたほか、自校給食施設において、スチームコンベクションオープン及び真空冷却機を導入したことにより、夏場の衛生管理が向上し、献立の充実が図られた。
今後の方向性	機器の更新は、老朽化の状況に応じて行う。

◆外部評価

前年度に引き続き、この部門の数値が高いのは心強いところです。「課題及び改善点」に記されているとおり、全国的には、施設の老朽化や天候不順による災害によって痛ましい事故が目立っています。報告書からは、限られた財源の中で計画的に整備を行い、成果を挙げていることが伺えます。引き続き丁寧に事業を進めていっていただきたいと思います。

また少子化に伴って全国的に学校の統廃合が急速に進行しつつあり、住民との難しい紛争を抱える自治体もまた全国的に多く見られるところですが、丁寧な説明を重ねた自治体は理解を得られているケースが多いように思います。入間市におかれましては丁寧な説明と協議を重ねてきているところだと推察いたしますので、引き続き丁寧に進めていっていただきたいと思います。

政策4 社会教育

第1項 社会教育の充実

◇施策(1) 社会教育環境の充実

目 標	市民の主体的な学習活動や仲間づくりを促進し、活力ある地域づくりに資するため、「個人の要望」を踏まえるとともに「社会の要請」を重視した学習の機会及び情報の提供の充実を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	学びと実践があふれるまちを目指して、小学生夏休み体験一覧表を作成し、配布した。
自己評価	A 環境への配慮から、従来の冊子の作成・配布の一部をチラシ配布に代え、児童がタブレット端末にて一覧表を閲覧できるようにした。
今後の方向性	参加者の増加を目標に、掲載する事業や施設の拡充を図る。
担 当	博 物 館
取組状況	社会教育施設として展示事業、教育普及事業を行うとともに、事業を市民へ伝えるための広報活動や、全ての土台となる調査研究活動を進めている。
自己評価	A 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館こそなかったものの、収容人数制限、飲食を伴う事業の中止などを余儀なくされた。その中で、実現可能な形で「ALITお茶大学」を開講し、「むかしのくらしと道具展」は、体験コーナーを実演コーナーに変更、茶席体験は見学のみ実施、といった対策を取ったうえでの開催状況等を鑑み、A評価とした。
今後の方向性	市と指定管理者との連携を拡充した事業展開を図る。次期指定管理者選定に向けて、今期が最終年度となるが、さらなる進展を目指す。

担 当	図 書 館
取組状況	<p>図書館資料の充実を図るため、児童書等を2,592点、一般向けの図書等を4,671点、参考図書165点、大活字本を92点購入した。また、視覚障害者の読書推進のため、録音資料6点を作成した他、雑誌スポンサー制度では、市内企業より雑誌26種の寄贈を受けた。</p> <p>資料の選定においては、個人の要望であるリクエストと、社会の要請である現代的課題を考慮した。</p> <p>魅力ある図書館づくりを推進するため、図書館ホームページでの最新情報提供に努めた。</p> <p>また、コロナ禍において、業務縮小や部分開館となった状況にも対応できる「いるまし電子図書館」を開始したほか、視覚障害者に対するサービスとして対面朗読は実施できなかったが、デイジー図書の作成(6点)および貸出(約600点)を行うことができた。さらに、公共施設を対象に、配本サービス行ったほか、不要本の配布事業(リサイクルコーナー)を実施することで、学習機会を提供した。関係各所との連携事業は中止となったものも多いが、「平和祈念資料展示」「認知症ブックフェア」のほか、新たに「児童虐待防止関連展示」等を行うことができた。</p> <p>広報面では、図書館ホームページの充実を図り、コミュニティFM放送やCATVに出演するとともに、「広報いるま」に図書館トピックス特集記事を掲載し、図書館だよりを4回発行した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>蔵書資料の充実については、適切な選書作業により、新規購入及び寄贈資料からの選定を行い、さらに資料の除籍を併用して図書館資料の更新を行い、資料点数689,720点となり、資料蔵書点数も目標の60万点に一步近づいた。また、「いるまし電子図書館」の開始により、いつでもどこでも本が読める環境を整えることができた。</p> <p>利用促進事業については、コロナ禍においても感染対策を徹底し、工夫をしながら、実施できるものについて可能な限り実施するよう努めた。SDGsの常設展示など新規事業も行い、学習機会の提供をすることができた。</p> <p>広報面においては、ホームページや各種メディア、広報紙等により、図書館情報を提供することができた。また、メールアドレス登録者には新刊案内などの最新情報の提供ができた。</p>
今後の方向性	<p>蔵書資料については、さらなる充実を目指す。図書館入館者と貸出点数の増加を目指し、利用促進事業や広報活動の充実を図る。</p>
担 当	公 民 館
取組状況	<p>各館が公民館基本計画で掲げた学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が上がるよう努めながら事業を実施する。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>各公民館において、公民館基本計画で掲げた学習課題を積極的に取り上げ、参加者の満足度が高い事業を目指し事業を実施しているが、コロナ禍においては今までどおり事業を実施することが困難であった。</p>
今後の方向性	<p>単に趣味、教養を身につけるための学習提供ではなく、現代的、社会的な課題を捉え、学習機会を提供していく。新たな参加者を獲得していくため、効果的な事業の周知方法や魅力ある事業内容を検討する。また、コロナ禍における事業展開を検討する必要がある。</p>

◇施策(2) 家庭・地域の教育力の向上

目 標	家庭・学校・地域が連携した子育てへの取り組みや家庭教育を支援し、家庭・地域の教育力の向上を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、可能な範囲で家庭教育学級を実施し、家庭教育の向上に努めた。また、いるまキッズアカデミーは新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が発令されたため未実施となった。
自己評価	B 家庭教育学級数については、無理のない範囲で実施し、21校のPTAが1～2回の講座を実施した。 いるまキッズアカデミーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催は中止したが、DVDを作製し参加申込者に配付した。
今後の方向性	家庭教育学級については、新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施していく。実施にあたっては、安全に開催できるよう、助言や情報提供などサポートを行う。 いるまキッズアカデミーについては、より多くの児童生徒が興味を持つような内容を検討する。
担 当	博 物 館
取組状況	社会教育施設として、郷土に関連した事業や、お茶に関する展示事業・教育普及事業、出前講座等を行うことで、家庭・地域の教育力向上に寄与している。
自己評価	B 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、今年度は臨時休館はしなかったが施設の収容人数制限、「こどもお茶大学」など事業の中止・縮小を余儀なくされた。その中で実現可能な形で「ALITお茶大学」を開講したほか、出前講座については希望者と博物館双方で感染症対策を取った上で開催した状況等を鑑み、B評価とした。
今後の方向性	多くの人が1か所に集まる講座形式が採りにくい状況が続く中、教育普及事業についてオンライン等の手法を検討していく。

担 当	図 書 館
取組状況	<p>コロナ禍のため、例年実施している小学校3年生を対象とした図書館見学や小学校2年生を対象とした図書館利用教室は行うことができなかったが、図書館紹介DVD「図書館へいこう」を作成し、各学校へ配布、視聴してもらった。また、可能な限り移動図書館車の巡回や配本サービス(26,797点)を行うことにより、学校と連携しながら、教育の向上を図った。</p> <p>また、感染症対策を徹底しながら、絵本の読み聞かせの「おはなし会」を全館で89回開催し、子ども読書推進策として「あれこれブックガイド」の配布や「読書ラリー」を実施し、読書機会の提供を行った。さらにおうち時間の充実のため「おすすめ絵本3冊セット」や「親子で同じテーマの本を読もう」などの貸出や「図書館キャラクターとんちゃんのぬりえ展」を行い、家庭教育を支援した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">A</p> <p>子どもたちの学習活動や読書活動の充実を図るため、図書館紹介DVDを配布したり、移動図書館の巡回や配本サービスで学校と連携した事業を実施できた。コロナ禍においても、例年通りの「あれこれブックガイド」の全児童への配布等を実施し、可能な限り、読書機会の提供を行い、教育力の向上を図ることができた。ブックスタート関連事業は行うことができなかったが、赤ちゃん向けの絵本を紹介したブックリストを配布することにより子育て支援を行った。</p>
今後の方向性	<p>家庭・学校・地域との連携を強化し、読書を通した子供たちへの教育力の向上に努める。</p>
担 当	公 民 館
取組状況	<p>各公民館が地域の力を生かした子育て支援事業の実施と家庭教育向上のための学習機会を提供した。</p>
自己評価	<p style="text-align: center;">B</p> <p>母子愛育会等の地域で活動する子育て支援団体の協力や関係各課との連携により、子育て教室等を通して、子育てに必要な知識を学び、仲間づくりにつながる事業を実施することができたが、コロナ禍において事業の実施が困難であった。</p>
今後の方向性	<p>妊娠中の親や乳幼児を持つ親が安心して子育てができるように、子育て支援団体等と連携し、地域ぐるみで取り組んでいく。また、コロナ禍における新たな事業展開を検討する必要がある。</p>

◇施策(3) 青少年教育の充実

目 標	市民や地域との協働により、青少年の自尊感情・自己有用感及び社会性・創造性を育み、社会を生き抜く力の習得を図ります。
担 当	社会教育課
取組状況	大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますことを目的に成人式を実施した。
自己評価	A 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、5部制に分散し、式典を短縮したことで、会場内の三密回避を図った。また、オンライン同時配信を行い、自宅からも参加できる環境を整えた。
今後の方向性	安心、安全な式典が開催できるよう実施方法の検討、情報提供・情報発信に努める。
担 当	公 民 館
取組状況	各公民館が、青少年が豊かな心を育む事業を実施した。
自己評価	A 学校の夏休みと春休み期間に子どもたちの学習(宿題、自由研究等)を支援するため、会議室を開放し、子ども居場所づくり事業を実施した。様々な青少年の体験事業を計画していたが、コロナ禍において多くの事業を実施することができなかった。
今後の方向性	青少年の豊かな心を育むために、地域、関係団体等と連携しながら、今後も様々な青少年の体験活動を提供していく。公民館が幅広い世代間の交流の場、地域の居場所となるよう事業を実施していく。また、コロナ禍における新たな事業展開を検討する必要がある。

◇施策(4) 文化財保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

目 標	先人が守り伝えてきた市内の貴重な文化財及び伝統文化を未来へ継承するとともに、地域に根ざした文化財を活かした事業を実施することで、市民の郷土意識を育みます。
担 当	博 物 館
取組状況	指定文化財の保護や、埋蔵文化財の保存に必要な事業を実施している。西洋館や旧黒須銀行では一般公開や各種事業を行うことで、保存とともに活用を図る。
自己評価	A 指定文化財や埋蔵文化財については、適切な保存を図ることができた。西洋館では、新型コロナウイルス感染症の影響により公開や事業の一部が中止になったが、一般公開や特色を生かした事業を実施することで、市民に西洋館の魅力を伝えることができた。また、旧黒須銀行では、復元改修工事に向けた実施設計を行うとともに、今後の保存活用の方向性を改めて検討することで、事業の充実につなげることができた。
今後の方向性	今後も引き続き、文化財の適切な保護保存を行う。西洋館については、一般公開や各種事業の充実とともに、より効果的なPR方法を研究し実施することで、多くの市民に知ってもらい、来館の機会が増えるように努める。また、旧黒須銀行については、保存活用の方向性を明確にするとともに、復元改修工事に向けた事業化を進めていく。
担 当	公 民 館
取組状況	地域の伝統文化を守り、育む事業を実施した。
自己評価	B コロナ禍において、地域の伝統文化活動団体や関係各課と連携し、地域の伝統文化を体験する事業や地域の歴史・文化を学ぶ事業を実施することができたが、事業への取り組みが一部の公民館にとどまっている。地域の伝統文化活動団体については、後継者の育成が課題である。
今後の方向性	今後も地域の伝統文化活動団体等と連携し、伝統文化を体験する事業や歴史・文化を学ぶ事業を実施していく。地域の伝統文化の普及及び発展のため、団体の活動を支援していく。また、コロナ禍において新たな事業展開を検討する必要がある。

◆外部評価

(1) 社会教育環境の充実

博物館担当の、「アリットお茶大学」は参加者数もさることながら受講者の満足度も高かったことから、評価4よりも高い評価で良かったと考えます。また「地域の歴史や文化やお茶に関する資料の収集・整理、データベース化」の事業は、文化遺産を未来につなげていく大切なものであり、人材、予算確保が課題と記されておりましたが、まさにその通りであり、特に予算編成において重視されるべきところだと感じています。「狭山茶、織物等と結びついた講座等の事業」については、講座に関わる人材の育成が課題とありましたが、これは「2. 生涯学習」でも指摘したように、具体的な施策が必要と思われます。同じように「出前講座」に関しても、専門を持った学芸員の異動により、これまで通りの事業として取り組めなかったとの記述がありましたが、人材の育成は専門性の尊重にも関わり、それが市民サービスに直接つながると考えられます。課題及び改善点に述べられていた問題を、どのように施策にのせていくのかが問われていると感じます。

博物館の授業について、「指定管理者による自主事業」やエントランスの仮設の受付設置など、コロナ感染の中で柔軟な発想で取り組んだ新規のイベントが、新たな来場者につながるという、この困難な中だからこそその発想が生かされた取り組みに敬意を表します。この報告書では指定管理者の実像は見えてきませんが、この採用も含め、連携の大切さを見せていただきました。また常設展示リニューアルに向けての取り組みも来館者を大切に、SNSの発信など若者にも心配りをする考えが通底されており、良かったですし、評価は妥当だと考えます。

図書館の事業については、学校教育で導入されている「主体的対話的、深い学び」や「探究」の授業など、子どもたちが主体的に学びに向き合うための環境整備として、調べ学習に使える図書の購入や、調査研究のための参考図書の購入は有効であり、評価も妥当でありました。またCDやDVDなどの視聴覚教材も、「学び」につながる内容を精査し、購入することが求められています。今回の報告では購入教材の内容に踏み込んではいませんが、次回に期待したいと思います。昨年も言及しましたが、視力の弱い人や視聴覚障害者など、弱者への配慮が行き届き、大型活字本の購入や、録音資料の作成の評価は妥当でした。また情報弱者への配慮も昨年度同様高いレベルの取り組みだと考えます。子ども向けの「おはなし会」はコロナ感染の状況で開催が難しいと思います。ただ、代替事業に取り組むことにより、その後の活用も含め、先を見越した取り組みがなされていました。課題に「多くの子どもに参加してもらうように努めたい」とありますが、具体的な方法の記述が必要かとも感じました。

とりわけ「利用促進事業の開催」においては、コロナ感染拡大で「できなかった」「回数が減った」だけでなく、この状況をどのように受け取り、新たな事業に組み替え発展させていったかが記述され、評価5は適切であり、今後につながる内容でもありました。「視聴覚ライブラリーを活用した映画会」においては、次回につなげる備品、消耗品の購入など、困難な中でも取り組んだ内容があり、次に繋がると判断するならば、3よりも上の評価をつけても構わないとも思いました。

公民館の高齢者社会への対応や、健康づくり推進、環境への意識を高める、安心・安全な暮らし、人権など、多くの学習機会の提供について、実施回数や、参加者数に加え、参加者の満足度から評価点数を導き出したことは、今後の事業の取り組みに新たな視点をいれ、事業レベルを高めるものだと考えます。先述しましたが、この「満足度」をどのように、施策に活かすのかが問われるとも考えます。

(2) 家庭・地域の教育力の向上

「PTA家庭教育学級」や博物館における「夏休み親子で楽しむ遊びの広場」等、コロナ感染拡大のために中止せざるをえない事業に関しての評価は概ね低くなりましたが、それでも代替措置を取り、次回につなげることにより、事業そのものの評価は別にして、意義あることだと考えます。その折、単に「代替の方法を検討した」とするだけではなく、検討した先を記述することも求められており、この記述次第では来年度の事業が様変わりすることも考えられ、事業のリニューアル及び、新しい取り組みに発展することにつながると考えております。例えばそれは図書館主催の「図書館見学、利用教室」に関して、コロナ拡大で実施できず、代替として「利用法のDVD」配布し、視聴してもらうといった方法にみられ、少しでも図書館に興味をもつ児童を育てる視点から、現実的な取り組みの先にできたこの教材は、今後も活用できると考えられます。「1日図書館員」「ボランティア育成の研修会」「市内小中高等学校図書担当教諭との情報交換会」「大人のための朗読会」など、開催実施が縮小されたり取りやめの事業があったり、現場の苦勞が忍ばれました。その中であっても代替事業や、「満足度」といった新たな指標を導入し、評価していく姿勢は良かったです。

(3) 青少年教育の充実

概ね高評価であり、特に成人式の開催については昨年に引き続きコロナ感染拡大の中、5部制という「決して諦めない」姿勢を打ち出し、その成果として出席率71,4%は特筆すべき結果であったと考えます。「青少年の豊かな心を育む」事業についても、地域の関係諸団体との連携が視野に入り、地域交流や世代交流を土台に今後の施策がなされていくことが予感され、コロナ後に向けて一歩が記されていると感じています。

(4) 文化財の保護・活用の充実、伝統文化活動団体の育成支援

多くの事業評価が5であり、それは妥当でした。文化財施設の保存と活用、伝統文化活動の保護と、活動への支援、そして後継者育成への視点が確かなものとして記述され、具体策についても文化庁補助金の活用や、後継者育成事業への補助金支出などを通じて、その意義を広め、文化財を市民の共有財産として大切にしている姿勢があらわれていました。またこの状況下にも関わらず、西洋館や、旧黒須銀行などの来場者は増え、文化を市民に活用してもらい、人生を豊かにする手助けができています。「地域の伝統文化を守り育む」事業に象徴されるように、一部の担い手だけに頼らないように市民へ向け、後継者も含め、ともに守るべき財産であるとの認識を深めるための計画についても言及されている中で、今後も模索は続き、その上での「新たな事業展開」に期待を寄せたいと考えます。

政策4 社会教育

第2項 社会教育施設等の整備

◇施策(1) 施設の充実・最適化

目 標	公共施設マネジメントの考え方に基づく施設の再配置に取り組み、サービスの適正化を考慮しつつ、公共施設全体の視点から社会教育施設の最適化を進めます。また、安全・安心に利用していただけるよう快適な施設づくりに取り組みます。
担 当	博 物 館
取組状況	新型コロナウイルス感染症対策の補助金を活用し、館内に公衆無線LANを構築するなど、施設の効率的な運用、魅力ある施設づくりに努めた。
自己評価	A 当初予算としては、十分な確保はできなかったが、改めて経年劣化により安全性に問題がある箇所が見つかった際には、庁内で調整を行うことで、適切な修繕に努めた。また、国の補助金を活用することで、未整備であった公衆無線LANを設置し、施設の運用面での向上を図った。
今後の方向性	施設設備の管理運営は指定管理者の業務となっているが、適切なモニタリングを行うことで、施設の適切な維持管理に努めている。また、空調をはじめ、改修が必要となる設備については、関係各課と連携を図ることで、計画的な施設の保全に努めていく。
担 当	図 書 館
取組状況	図書館網の整備として、ダイア5市(所沢市・飯能市・狭山市・日高市・入間市)や青梅市との広域連携により、相互利用者数の増加に努めた。 また、埼玉県西部地域まちづくり協議会図書館部会での情報交換に努め、広域サービスの充実を図った。 図書館施設の計画的な整備として、設備や備品の整備を行い、快適な環境を確保し、市民満足度の向上を図った。
自己評価	A 図書館内の設備については、電子図書館の導入、新型コロナウイルス感染拡大防止対策としてカウンターに透明アクリルパーテーションの設置(全館)、金子分館への本の消毒器の新設ができた。また、西武分館一般開架ホール空調設備工事ができた。 図書館システムについては、大きな障害もなく安定的運用が図れた。 ダイア5市や青梅市との相互利用者数の増加やサービス向上に努めたが、相互利用者数については、前年度に比べて減少した。
今後の方向性	図書館内の設備については、今後も更新を継続する。 図書館システムについては、引き続き、安定的運用に努める。 広域連携については、更なる強化とサービス向上について研究するとともに、新たな連携を模索する。 図書館の新たな役割として、市民の居場所としての施設、設備を計画的に更新できるよう、公共施設マネジメント事業計画の中で対応を進める。

担 当	公 民 館
取組状況	公民館施設の充実及びバリアフリー化に取り組んだ。
自己評価	A 緊急性の高い工事・修繕を優先して公民館の施設整備に取り組んだ。また、公民館のバリアフリー化推進のため、トイレの洋式化工事を計画通り実施することができた。
今後の方向性	今後も限られた予算の中で緊急性を判断し、優先度の高いものから工事・修繕を実施していく。大規模的な修繕については、公共施設マネジメント推進課と協議を行いながら実施していく。

◆外部評価

「博物館施設、図書館施設、公民館施設」の充実に向けて適切な対応と評価であったと考えます。